

## ◆ 業務グループ別業績

当行は顧客志向型の業務体制を敷いており、対象とする顧客・マーケットごとに業務グループを設置しています。

平成12年9月中間期の当行の業務純益(除く一般貸倒引当金繰入額)は2,036億円と、平成11年9月中間期(2,050億円)に比べわずかに減少しました。これは、内外マーケティンググループ(個人業務・法人業務・企業金融・国際業務グループの合計)の収益が引き続き増益基調を維持した一方、市場営業グループの収益が金利環境の変化等により大幅減益となったことによるものです。各業務グループごとの業績の概要は次のとおりです。

### ◆ 個人業務グループ / 国内の個人・地元法人取引を担当

平成11年9月中間期比では、超低金利局面の持続によって預金の収益性が悪化したこと、過去に取り組んだアパートローンの返済が進んだこと等により減益となりましたが、合理化の一層の推進により経費削減は順調に進みました。また、粗利面でも投資信託の販売手数料や外貨預金収益が順調に拡大しました。

### ◆ 法人業務グループ / 国内中堅・中小企業取引を担当

資金需要の低迷により貸出金残高は減少したものの、信用リスクに見合ったレベルへの貸金利鞘の適正化が進みました。また、お客さまの高度なニーズにかなったソリューションの提供に注力した結果、振込・EB(エレクトロニック・バンキング)関連やシンジケーションのアレンジメント等の手数料が増加し、平成11年9月中間期比増益となりました。

### ◆ 企業金融グループ / 国内大企業取引を担当

法人業務グループ同様、貸出金残高が減少する一方で、貸金利鞘の適正化を図れたこと、およびシンジケーションのアレンジメント、コミットメントライン等の業務も好調であったことから、平成11年9月中間期比増益となりました。

### ◆ 国際業務グループ / 海外支店・現地法人所管の日系・非日系企業取引を担当

欧州・アジアを中心としたファイナンス案件の手数料が好調だったこと、預金収益が順調に拡大したこと等から、平成11年9月中間期比増益となりました。

### ◆ 市場営業グループ / 内外ALM(アセット・ライアビリティ・マネジメント)、債券ポートフォリオ業務、トレーディング業務を担当

海外金利の上昇、債券を中心とした高利回り資産の期日到来等により、平成11年9月中間期比大幅減益となりました。

## 平成12年9月中間期業務グループ別経費差引後収益

(単位: 億円)

	個人業務 グループ	法人業務 グループ	企業金融 グループ	国際業務 グループ	マーケティング グループ小計	市場営業 グループ
粗利益	789	1,178	398	297	2,662	722
(平成11年9月中間期比)	( 80)	(65)	(27)	(54)	(66)	( 388)
経費	718	419	49	151	1,337	65
(平成11年9月中間期比)	( 38)	( 16)	( 3)	( 2)	( 59)	(3)
経費差引後収益	71	759	349	146	1,325	657
(平成11年9月中間期比)	( 42)	(81)	(30)	(56)	(125)	( 391)